

医療政策信念で動かす



伊藤 雅治さん
(元厚生労働省医政局長)

医系官僚として厚生労働省の局長を務めた後、患者の声を医療政策の決定プロセスに反映する活動に力を注いだ。

新潟大学の医学部生時代は無給研修（インターン）制度の廃止運動を先導し、実現後に保健所勤務を経て

1971年に厚生省(当時)入省。結核や薬害エイズなど感染症対策のほか、「寝たきり高齢者ゼロ」を目指し、訪問看護など現在の介護保険サービスの基盤を整え、2001年に医政局長を最後に退官した。

全国社会保険協会連合会の理事長として社会保険病院の改革・再編に道筋をつける一方、医療費の削減額をトップダウンで決める政策で医療現場が疲弊する様子を目の当たりにした。

「国民も加わって負担と給付のバランスを見いだす

必要がある」。東京大学の医療政策人材養成講座で学び直してまとめた提言が患者会有志が集う「患者の声を医療政策に反映させるあり方協議会」を生んだ。

協議会の活動もあり、患者の権利などを定める医療基本法は制定へ動き出した。協議会代表世話人の長谷川三枝子さん(78)は「行政と国民の立場を知り、穏やかな人柄ながら強い信念を持って医療を動かす人だった」と惜しんだ。

11月9日没 76歳

(前村聡)